

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、地域の中で、その人らしく生活することを支えられるものだったかどうかを職員全員で確認し、個性を活かし、住み慣れた地域での安心した暮らしができるよう理念を作り上げている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや申し送りでは、理念の意味を考えながら掘り下げて、同じ目標を持って介護のあり方を高めるように繰り返し話し合っている。玄関やリビングに掲示し、いつも理念に触れ、確認しあうようにしている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関やリビング内に掲示すると共に、ご家族には入居時並びに家族交流会で説明させていただいている。近所の方が入居されているため、友人やご近所の方々がたくさん面会に来られるので、その時分かりやすく説明したり、パンフレットなどを活用したりして理解してもらえよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣りがスーパーなので買い物に出かけたり、散歩に出かけたりして、隣り近所の人たちと挨拶を交わし、話をしている。回覧板が届く時気軽に中に入らせていただき、話をして触れ合う機会が多い。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、地域活動にできる限り参加している。また、近くの幼稚園があり、園児と交流する機会もある。近所のボランティアの方も訪問してくださる。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	気軽に地域の高齢者に声かけして、立ち寄ってもらい、認知症への理解やこれからの生活に対する不安など話せる雰囲気作りをしている。(畑で野菜を育てたり、野外で餅つきなど)人材育成の貢献として、実習生の受け入れを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目標・外部評価の結果を全職員に伝え、自らのケアを振り返る機会と受け止め、全員で自己評価に取り組むようにしている。また、改善に向けての具体的な案を話し合い、実践につなげるようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、前年度外部評価の結果を報告し、今後の取り組みについて話し合ったり、その場で取り上げられた検討事項について、その経過を報告し、一つ一つ事例を積み上げてサービス向上の手がかりとしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受け入れにより、入居者の希望や意見を参考にしてサービスの質の向上に役立っている。包括支援センターの方々との交流があり、手続きの相談をしたり、ホームに足を運んでいただいたりもしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	機会あるごとにこのような制度があることを職員に説明している。対応が必要なケースには管理者が中心となって対応している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングなどで高齢者虐待防止関連法について話し、理解を促している。例えば自分の親だったら、どのようにしてほしいかを考えながらケアをするなど具体的な事を提示している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書により契約を結ぶ際、利用料金や入居・退去の基準の詳しい説明を行い、同意を得るようにしている。利用者の状態変化により退去に至る場合は、本人や家族等と対応方針を相談している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のメンバーの家族代表の方が、他の入居者の方々に話しかけてくださり、意見やお願いを尋ねてくださったり、介護相談員の訪問により、利用者の意見や不満をいただいたりして、運営の参考にしている。受付窓口・責任者・第三者委員などの連絡先を提示し、意見や不満や苦情を運営に反映させている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム全体のことや暮らしぶりや健康についての近況報告と行事予定や写真を添えて通信を一人ずつ作成し、郵送している。必要に応じて、電話にて、報告や相談をさせていただくようにしている。職員の異動についても通信を利用している。金銭管理は、出納帳に記入し、家族の面会時にサインを頂いたり、来られない方には、郵送している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会や運営推進会議等において常に問いかけたり、ご家族が訪問されたとき、何でも話していただけるような雰囲気づくりを心がけている。出された意見や要望は、ミーティングで話し合っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回定例会を開き、職員全員の意見や提案を聞く機会を設けている。事あるごとに問いかけたり、聞き出したりするようにしている。出た意見や提案等は、月1回グループ全体会でも一度話し合うようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者のニーズや生活時間に合わせた柔軟な対応ができるようにパート職員の人数を多くして、急な勤務シフトの変更にも対応できるようにしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者にとって馴染みの職員が対応することで、とても安心して暮らしていただけるので、顔馴染みの職員によるケアを心がけている。新しい職員が入る時は、利用者きちんと紹介している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や介護支援専門員協会、社協の主催する研修等を積極的に受講すると共に、月1回職員の勉強会を開いている。参加できなかった職員には、資料と報告書を閲覧できるようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連グループホーム4箇所において、毎月1回話し合いがあり、事例の検討会等を行うことで、質の向上に役立っている。在宅医療クリニックの医師や看護師と一緒に看取りに関する勉強会をしたり、近くの支援センターのケアマネが訪問してくださったり、近くの病院(通所リハビリ)の相談員の方とも交流がある。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の親睦会(新年会や忘年会など)を開き、他のグループホームや事業所との交流や親睦をはかり、気分転換できる機会をつくっている。週1回の定例会の時やその後に悩みなどを聞くようにしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、週1回の定例会はもちろんのこと、よく現場に出向き、職員の業務等を把握している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に関する相談があった時は、必ず本人に会って心身の状態や思いを話していただけるような声かけや機会を作り、職員が受け入れられるような関係作りをしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に訪れて下さったとき、家族の苦労や不安などを本人の意思とは別にゆっくり聴くようにしている。話を聴くうちに家族の状況を把握することができ、信頼関係を作ることにつながっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、早急な対応が必要なかどうか、本人と家族の思いや状況等を確認し、可能な限り柔軟な対応を行っている。 (他のグループホーム、デイサービス、ショートステイなど)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族と一緒に見学されたり、職員が自宅へ訪問させていただくことにより馴染んでいただけるようにしている。なお不安がある場合にはご家族の方と食事をされたり、また、泊まさせていただくことにより安心感を持っていただくようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者と共に暮らす同士であり、人生の先輩であるという考えを共有しており、入居者の得意な分野(料理の仕方、行事の風習など)において学ぶことが多く、相談しながら物事を進めるように声かけをしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子を話したり、思っている考えを伝えたりしていくことで、家族と協力し合って本人を支えていける関係を築くようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族や本人の思いや状況を見極めながら、花見や家族交流会などの行事にご家族をお誘いし、日頃の状態を報告し相談するようにして、より良い関係づくりに努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の半数以上は地域に暮らしていた人たちなので面会も多く、クリニックの送迎ルートをいろいろと変えて、馴染みの場所を通るようにして支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は、毎日一人ひとりに時間を作って声をかけ、話を聴いたり、食事の時間も一緒に多くの会話を持つようになっている。気の合う者同士で楽しく過ごせるようにいつも座る椅子の場所を決め、孤立しないよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年賀状や暑中見舞いなどを差し上げることにより、近況をお知らせくださったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけかわりを持つように心掛け、本人がどのように暮らしたいのか、どうする事が最良なのかを家族や職員を交えて検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に自宅に訪問したり、ご本人やご家族から聞き取ったり、書いていただいたりしている。入居後も折りに触れ、ご本人に問いかけ、どのような暮らしをしていたのか把握するように心がけている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人ひとりの生活リズムや身体状態を理解するように努め、できることや理解できることなどを把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族に対して、思いや意見を聞くための話し合いの機会を持ったり、遠くてなかなか訪問できない家族には、電話や手紙を利用して意見交換して介護計画の作成に活かしている。職員全員で意見交換やカンファレンスを行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、職員や家族・本人と話し合い定期的な計画の見直しを行っている。職員が記録する業務日誌やケース記録を参考にした状態の変化や家族・本人の要望により検討の見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が毎日、入居者の状態変化や気づいたことをケース記録・業務日誌・申し送りノートに書き込み、勤務開始前に確認することで、情報の共有化を図り、職員間のケアの実践や介護計画の見直しに役立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への受診時の送迎や付き添い、日常的な買い物の支援など、入居者の希望や生活状況から発生するニーズに柔軟に対応している。遠方の家族の訪問時、ゆっくりしていただくための支援をしている。(希望により、食事を準備したり、宿泊も可)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近くに坂元交番があり、顔見知りの警察官が見回りや訪問をしてくださる。民生委員やボランティアの方やご近所の方が訪問してくださり、理解と協力をお願いしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	近くにケアハウスがあり、そこで行われている書道教室、華道教室に希望者のみ参加させていただいている。他にもクリニックで行なわれる演芸会やリハビリに参加している。訪問理美容サービスも利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	紙おむつの申請時、詳しい説明と手続きに訪問していただき、これをきっかけに、色々と他の入居者のことなど少しずつ協力関係を築いている。	○	運営推進会議の参加依頼を検討中です。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を確認し、協力医療機関や以前からのかかりつけ医で継続して受診できるように支援している。他科受診の際も家族の希望する医療機関を利用することができる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員にとって、入居者は自分の家族だと思って接するように心掛けており、尊敬の気持ちを忘れないような声かけや対応をしている。さりげなく介護や誘導ができるように、ミーティングのとき、意識向上を図っている。ファイルは鍵付戸棚に保管している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりの体調・体力・理解力に合わせて、出来そうなことや興味のありそうなことには、声かけをしてみるが、本人が希望されないときは、無理強いしないように心掛けている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活をしてもらいたいという家族の希望があり、基本的な一日の流れにしたがって過ごしていただいているが、その日の体調や本人の希望により、柔軟に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時に、服を着られる際できるだけ、見守りや支援をして、季節感のあるその人らしい身だしなみができるように心掛けている。訪問美容・理容を利用しているが、希望に合わせたカットや毛染めをしてもらっているようである。家族が訪問されて、カットされる方もおられる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや苦手なものを把握し、旬の食材やメニューを工夫することにより、食事が楽しみなものになるようにしている。食材と一緒に見ていただき、献立を決めたり、調理や片付けに参加していただき、職員が一方向的に進めることのないようにしている。職員も、同じテーブルに着いて、味や出来栄などを話しながら、食事ができるようにしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	今のところお酒や煙草を希望される方いないが、飲み物やおやつ等は、10時と15時のおやつタイムのほか、希望される時に、他の方々にも、声かけをしてから、差し上げるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンや習慣を把握し、トイレ誘導や声かけにより、トイレでの排泄や尿取りパットの交換により、気持ちよく過ごしていただけるように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	平日は、午前中クリニック受診があるので、午後から夕方まで、休日は、朝から夕方まで、毎日入浴できるように準備している。入居者の希望を確認し、少なくとも、1日おきには、入浴していただけるように声かけをしている。入浴を嫌がる方には、タイミングを計って、何度か声をかけたり、仲の良い方と一緒に入られるようにして工夫している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間にゆっくりと眠れるように、できるだけ昼間は起きて活動をしていただくようにゲームや歌などのレクリエーションを取り入れている。夜間寝つけない方は、そばにいて話をしたりして、安心感を持っていただくようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力が発揮できるように、色々な場面を作って、声かけをしている。書道・華道・化粧教室など、それぞれに得意なことをみつけて、挑戦していただくように心掛けている。畑での野菜作りやほとんど毎日乗る送迎車からの景色は、気晴らしの支援につながっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来ない方がほとんどだが、隣りがお店なので、職員と一緒に買い物に行くことがあるので、その時、欲しい物を自分で買っていたりして支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	平日は、午前中クリニック受診があるので、送迎車が迎えに来ると、ほとんどの方が、治療というより、ドライブ感覚で喜んで乗り込まれ出かけられている。送迎コースも色々で、車内より、お花見をしたり、街中を眺めたり、神社参拝をしたりして楽しんでいただいている。歩ける方は、日常的に買い物や散歩も職員と一緒に出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お弁当を持って公園に行きたいという希望の実現のため、全員外出するのは、職員だけではなかなか出来ないため、運営推進会議で検討し、家族交流会を公園ですることにして、家族の協力を依頼しました。これからも、家族とともに出かける機会を計画している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば、職員が電話をかけて、話していただいている。また、定期的に家族の方に電話をしていただいている方もいる。手紙が書ける方は、声かけをして手紙が出せるように支援している。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は決めているが、仕事の前に訪問されたり、帰りに寄られたりして、都合のよい時間帯に訪問していただけるようにしている。友人や近所の方にも、気遣いをさせないように、声かけをしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングの中でケアを振り返り、気づいていない身体拘束はなかったか点検している。今のところ、そのようなケースはない。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の行動パターンを把握して、外出したい様子の時は、さりげなく声をかけて一緒に出かけるようにして、支援をしている。家族の方々からは、ドアの開放は心配であるとの声が上がっているが、畑の草取りや玄関前の花の水遣りなど、ドアを開放して鍵をかけないケアに取り組んでいる。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は料理や記録などの作業を行いながら、さりげなく全員の状況を把握するように努めている。夜間は、見回りはもちろんであるが、入居者の様子がよくわかるように夜勤者の部屋の窓やドアを開けてすぐに対応できるようにしている。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状況の変化により、少しずつ危なくなってきた物だけ預かるようにしている。本人が使いたい時には職員の見守りにより使用し、また預かって保管している。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危険な行為や予測される事故などに気づくことができるように、毎日ヒヤリハットを記録することで今後の予防対策にしている。事故が発生したときには、事故報告書を作成し原因の究明と再発防止につなげている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の勉強会で、体得している職員が、マニュアルをもとに、他の職員に教えるようにして、訓練している。	○	救急救命の勉強会を計画中です。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署とセキュリティ会社の方々の協力を経て、避難訓練(特に夜間帯での訓練)や避難経路の確認や消火器の使い方などの訓練を年2回行っている。隣近所の方々にも普段からお願している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	生活していく上で起こり得るリスクを話し合い、本人にとって何がよいのか、どのような生活をするのが本来の姿なのかを説明し、理解を得られるように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は、普段の様子を把握しているので、顔色や食欲がないなどの変化が見られたときには、バイタルチェックを行い、記録をつけて少しでも異常があれば様子を見守り、おかしいと思ったときには、すぐに主治医に連絡して、指示をいただくようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成して、いつでも確認できるようにしている。薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態の変化が見られた時には、日誌や申し送りノートに記録やメモを取り、医療機関と連携が図れるようにしている。服薬時には、本人に手渡し、服用されるのを確認している。服薬管理表でチェックしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	普段から野菜を多く取り入れたメニューで食物繊維をたくさん摂取するように心掛けている。決まった時間に声かけをして、トイレに誘うようにしている。なかなか排便がない方には、下剤を使うこともある。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとりに歯磨きの声かけを行い、職員が見守ったり、介助を行っている。週1回義歯洗浄剤を使って、職員がきれいに磨いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた食事ができるように食事の内容や摂取量を記録している。職員は、一緒にテーブルについて食事をするので、大まかではあるが、把握している。普段から水分量の少ない方には、積極的に声かけをして支援している。定期的に管理栄養士のアドバイスをもらっている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルを作成しており、予防や早期対応に努めている。インフルエンザの予防接種は職員共に受けている。ペーパータオルを使用し、予防している。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板とふきんは、夜勤者が毎晩漂白殺菌している。包丁や食器は、乾燥機に入れて温風消毒をしている。冷蔵庫も週1回掃除して、清潔を心掛けている。なるべく買い物にでかけて買いためをしないようにして、鮮度のよい食材を使うようにしている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前にプランターや植え木鉢を置いて、季節感のある花を植えたり、隣接する畑に野菜を植えて親しみやすくしている。玄関の中には、生け花や写真などを飾って、和やかな雰囲気です話ができるようにしている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は明るい雰囲気です、いつも季節感のある人形の置物や花を生けるようにしている。カウンター越しに台所のようなすが、見えるようになっているので、ご飯や料理の匂いや食材を刻む音、食器を洗う音など生活感を味わえるようになっている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの一角にソファが置いてあり、一人で過ごしたり、気の合う方と話しをしたり、テレビを見たりして、くつろげるスペースをつくっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には、慣れ親しんだ家具を持ち込む方や家族の写真、亡くなられた方の写真や仏壇、使い慣れた目覚まし時計など、安心して過ごせるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングは調理中や掃除の時には、換気をしており、冷暖房は、入居者の体調や様子などに注意してこまめに調節するようにしている。トイレはよく使用される場所なので、こまめに掃除をしたり、換気扇と消臭剤で悪臭が出ないようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは手すりが付いていて一人でも座ったり、立ち上がったりにできるようになっている。廊下が広がっていて、安心して車椅子や歩行器を使用していただける。更衣室が広く、車椅子でも浴室のそばまで楽にいくことができる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所が分からなくなる方に、お手洗いの文字を大きくして分かりやすくしたり、ドアに「おす」と「ひく」の字をつけたり、自分の部屋がわかるように、好きなぬいぐるみをドアの取っ手につけて、声かけをしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前にプランターや植え木鉢を置いて、職員と一緒に季節感のある花を植えたり、隣接する畑に野菜を育てて、日常的に楽しみながら活動できるような環境にしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者が地域の中で、その人らしい生活を安心して続けるための支援や孤独になることがないよう、家族のように接することで、共に悩み、共に楽しみ笑い合えるような雰囲気を心がけている。小高い丘の上の団地にあるので、リビングや居室の窓からの眺めがよく、たくさんのお家並みやバス停での様々な風景、桜島や錦江湾などを眺めることで、生活空間が広がって、開放的な気分になれる。関連法人の福祉施設の協力により、書道教室・華道教室・化粧教室など、色々と活動的に参加させていただき、交流する機会がある。他にも、4箇所グループホームがあり、月1回は合同演芸会を催したり、管理者同士気軽に相談し合っ、内部職員研修の資料も自分たちで作成している。